BrauBeviale 2026
ファイナルレポート
国際飲料産業専門見本市
2026 年 11 月 10 日～12 日

2026 年 11 月 13 日

BrauBeviale 2026 - 欧州飲料業界を牽引する交流の場として確かな存在感



Summary

- ビール、ワイン、ノンアルコール飲料の関連業界が一堂に集結
- 飲料業界が直面する課題に応える具体的なビジネス機会と実践的なソリューションを提供
- BrauBeviale は、欧州飲料業界の中核的な交流プラットフォームとしての地位を一層強化

Facts & Data

会期	2026 年 11 月 10 日（火）～12 日（木） 9 時～18 時 ※最終日のみ 17 時まで
会場	メッセ・ニュルンベルク
主催	YONTEX GmbH & Co. KG
規模	-㎡（2024 年度：9 ホール、35,403 ㎡）
出展企業	38 カ国から 800 社（2024 年度：858 社）
来場者総数	約 27,000 人（2024 年度：30,821 人）
主な出展品	＜原材料・添加物・薬剤＞ビール、ワイン、ジュース、スピリッツ＜生産設備＞醸造機械、蒸留用機械・装置、ろ過設備、醸造用計測装置、多機能抽出装置、タンク各種ほか＜飲料詰込機、包装機械＞瓶詰装置、瓶充填装置、包装・梱包・ラベリング・マーキング機械、パレッティングほか＜パッケージ関連＞ガラスボトル、ペットボトル、樽、コンテナ、キャップ各種、ラベル、接着剤ほか＜運搬関連＞産業用運搬社全般、倉庫設備、倉庫管理、オーダーピッキングシステムほか＜ケータリング機器＞パブ機器、バー機器、冷凍設備、ディスペンサー各種、ケータリング食器洗い機、自動販売機＜水・排水＞水・排水処理装置 ほか ラボ技術、研究、各種サービス、業界団体・媒体 など
出展日本企業（現法出展など含む）	㈱いけうち、㈱大阪冷研、沖電気工業㈱、㈱ナカキン、日本クロネス㈱、㈱リコー ほか
専用 URL	www.braubeviale.com（英語 / ドイツ語）

対面での交流、活発な議論、そして新たなビジネス機会に満ちた 3 日間であった。2026 年 11 月 10 日から 12 日にかけて、ニュルンベルク・エキシビションセンタで開催された BrauBeviale 2026 は、欧州飲料業界の力強さと前進意欲を遺憾なく示す場となった。欧州各地から集まった飲料メーカやサプライヤは、最新の知見や経験を共有するとともに、既存の取引関係を強化し、自社事業の更なる発展に向けた新たな可能性を探った。会場を包んだ活気ある雰囲気は、BrauBeviale が欧州飲料業界における中核的な交流・商談の場であることを、改めて印象付けるものであった。



38 カ国から 800 社を超える出展企業がニュルンベルクに集まり、飲料製造のプロセスチェーン全体を網羅する製品やソリューションを紹介した。出展者のほぼ半数はドイツ国外からの参加である。本見本市の欧州全域にわたる影響力は、来場者構成にも表れており、約 2 万 7,000 人の業界関係来場者のうち、93%が欧州各国からの来場であった。こうした高い参加率と国際性の豊かさは、BrauBeviale が欧州各地の飲料関連企業にとって引き続き重要なビジネスプラットフォームであることを裏付けている。

YONTEX 社のマネージング・ディレクタ Rolf Keller は、「昨今、企業は自社が活動する市場やビジネスプラットフォームについて非常に慎重な見極めを行っている。そうした中、今回も BrauBeviale が、欧州全域から出展者と業界関係者を一堂に集めたという事実は、強力なメッセージの発信となっている。特に、東欧地域からの参加が再び活発になったことを大変うれしく思う。これは、欧州飲料業界におけるビジネス関係の構築や市場開拓において、この見本市が重要な役割を果たしていることの表れである」と述べている。

飲料メーカに広がる新たな事業機会

「Time for Opportunities（チャンスをつかむとき）」を掲げ、今回は、既に実現可能なソリューションに焦点が当てられた。BrauBeviale では、ビール、ワイン、ノンアルコール飲料のメーカに対して、現在直面している事業運営上の課題に対する解決策を探り、サプライヤと直接意見を交わす機会が提供された。出展各社は、バリューチェーン全体にわたって、新たな飲料カテゴリーの開発、既存生産設備のより多角的な活用、省エネルギー・省資源化、さらには事業運営の費用対効果の向上につながる技術やプロセスを紹介した。

BrauBeviale は、将来の可能性を語る場ではなく、今すぐ実践できるソリューションを提示する場である。YONTEX 社のエグゼクティブ・ディレクタ Markus Kosak は、「来場者が BrauBeviale を訪れる目的は、技術的な改良や原材料、そしてそれらがもたらす新たな可能性ついて学ぶことだ。重要なことは、最新技術の実情を把握すると同時に、それを自社の事業運営に活かすための実践的な方法を見いだすことにある」と述べている。



BrauBeviale の際立った特徴は、欧州全域への広がり、親しみやすい雰囲気、そして具体的なビジネス上のメリットを兼ね備えている点にある。飲料業界は、人と人とのつながりで築かれる信頼関係と長年にわたるネットワークによって支えられている。そのため、多くの企業にとって BrauBeviale は年間スケジュールに欠かせない重要な行事となっており、数日の会期中に、数多くの国から訪れる重要な顧客、

長年のビジネスパートナ、業界関係者と顔を合わせる機会が得られるだけでなく、新たな人脈を築く機会ともなっている。

既存設備を活用した新たなビジネス機会の創出
酒習慣の変化は、ビール、ワイン、ノンアルコール飲料のメーカに新たな販売機会をもたらしている。特に醸造所は、既存の生産設備やこれまで培ってきた製造ノウハウを活用することによって、新たな飲料カテゴリーへ進出し、新たな顧客層を開拓することが可能となる。BrauBeviale は、こうした事業の多角化をめぐる課題への解決策を探る上で、理想的な場となっている。



併催プログラムでは、実際の事業や生産現場での活用につながる数多くのアイデアが提示された。
「Main Stage」では、専門家たちが市場の最新動向や新たなビジネス機会について議論を交わした。
なかでも、Peer to Beer 社の Charles Nouwen 氏による基調講演「Going Beyond Beer or Taking Beer Beyond?（ビールの枠を超えるのか、それともビールの可能性を広げるのか）」は大きな注目を集めた。同氏が示した飲酒習慣の変化や醸造所における新たな事業機会に関する知見は、業界関係者の共感を呼び、新たな気づきや発想をもたらした。
「Focus Corner」で開催されたワークショップでは、参加者が特定の課題について、より深く掘り下げ、具体的なテーマについて専門家と直接意見を交わした。そして、「Pilot Area」では、飲料製造の現場で活用できる実践的な応用技術や製品が紹介され、「Discovery Bar」では、来場者は飲料業界の多様性を直接体験することができた。

この 3 日間の会期中、来場者と出展者は 50 種類以上の飲料コンセプトを試飲し、各製品の開発・製造元と直接対話しながら、製品開発やその背景にある加工技術について意見を交わす機会を得た。試飲に供された飲料は、機能性を加えた涼飲料水や発酵系ノンアルコール飲料、新しいアペリティフ（食前向け飲料）まで多岐にわたって、変化する消費者ニーズに応える飲料開発の広がりを示すものであった。

BrauBeviale 2027：欧州飲料業界の重要日程
欧州の飲料業界にとって実りある 3 日間が幕を閉じた。そして、次回開催は既に決定している。次回 BrauBeviale は、2027 年 11 月 9 日から 11 日まで、ニュルンベルク・エキシビションセンタで開催される。

詳細情報ならびに写真は、専用ホームページ www.braubeviale.com まで。

資料請求、出展申込み、各種お問い合わせ先：
メッセ・ミュンヘン 日本代表部
株式会社メッセ・ミュンヘン・ジャパン
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 3-20-3 ノアーズアーク虎ノ門 5 階
Tel.: 03-6402-4583 Fax: 03-6402-4584 E-mail: info@messe-muenchen.jp
URL: www.messe-muenchen.jp（日本語）www.messe-muenchen.de（英語 / ドイツ語）